

春日井市交響楽団

3rd 定期演奏会



'94
7/17(日)

春日井市民会館

開演 — 15:00

開場 — 14:30

管弦楽 春日井市交響楽団
客演指揮 竹本泰蔵

チャイコフスキー作曲 交響曲第5番

モーツァルト作曲

フルートとハープのための協奏曲八短調

フルート：五島憲一(団員)

ハープ：木村衣里(団友)

シューベルト作曲 ロザムンデ序曲

入場無料

●入場整理券は、春日井市内の次の施設にて配布します。

(整理券が必要です)

春日井市役所2F情報コーナー・春日井市民会館・春日井市東部市民センター・
春日井市内各公民館・春日井市内各ふれあいセンター・春日井市民文化センター

■なお、郵便でのお申し込みご希望の方は、春日井市交響楽団事務局(下記)まで往復ハガキでお申し込み下さい。

お問い合わせ先／春日井市交響楽団事務局(〒487 春日井市松本町1200 中部大学内) ☎0568-51-1111

春日井市教育委員会文化振興課

☎0568-85-6451

主催／春日井市交響楽団 共催／春日井市 後援／愛知県教育委員会・春日井市教育委員会・中日新聞本社

春日井市交響楽団

平成2年11月、春日井市の市民アマチュアオーケストラとして設立。以来、創立記念演奏会(平成3年1月)・第1回定期演奏会(平成4年1月)・第2回定期演奏会(平成5年1月)など毎年自主演奏会を開催している。平成5年12月、春日井市制50周年記念行事の「第九演奏会」(指揮：石丸寛)には地元の合唱団とともに128名の特別編成の大オーケストラで参加した。定期演奏会その他、市役所でのコンサート・演奏旅行・小学校の音楽教室・レコーディング・ハイビジョン映像出演など活発に演奏活動を行っている。楽団員資格は、年齢を問わず、学生・会社員・医師・教員・主婦などのアマチュア演奏者に広く門戸を開いている。常に最高をめざして、芸術性の高い名曲の名演奏を提供することをモットーに活動を展開している。

なお、愛称「カボ」は英字名称(KAsugai City Philharmonic Orchestra)の頭文字をとったものである。

第3回定期演奏会へのお誘い

竹本泰蔵氏を客演指揮者にお招きしての、この「第3回春日井市交響楽団定期演奏会」は、シューベルトとモーツァルトとチャイコフスキーの名作ばかりを集めた、たいそう高趣味なものになりました。

音楽劇《ロザムンデ》(魔法の堅琴)序曲は、まさにシューベルトの美しいメロディの宝石箱です。音楽の楽しさと喜びが、ルビーやサファイアのようにちりばめられていて、きっとみなさまを夢の世界へお誘いすることでしょう。

《フルートとハーブのための協奏曲八長調》は、1778年、22歳のモーツァルトがパリで書いた名作のひとつです。ド・ギーヌ公爵は、モーツァルトに娘の結婚式のための祝典曲を依頼しました。公爵がフルートの名手であり、その娘もハーブを巧みに奏いたので、ここにフルートとハーブを独奏楽器とする珍しい形式の協奏曲が生まれました。父と娘の微笑ましい合奏は、どんなにか婚礼の宴を盛りたてたことでしょう。生演奏の機会がすくない、このロココの逸品を、耳と目で十分にお楽しみください。

チャイコフスキーの《交響曲第5番》が書かれたのは、1888年(48歳)の夏のことでした。《第4交響曲》から11年、彼を襲った長いスランプからようやく立ち直った苦闘の末の作品です。苦しみに満ちた運命の動機で始まる第1楽章・オペラのアリアの饗宴を思わせる第2楽章・華やかなワルツの第3楽章・フル・オーケストラが雄叫びを上げながら、怒濤のようにフィナーレへとなだれこむ行進曲の終楽章——カボの全員が満を持して放つこのチャイコフスキーの交響曲を、ぜひ、みなさまにお聴きいただきたいのです。

(春日井市交響楽団 音楽監督 都築正道)

指揮：竹本泰蔵

Taizo Takemoto

1956年神戸生まれ。

1974年、京都市立芸術大学音楽学部作曲科に入学し、翌年指揮科に転科、その間、広瀬量平、阿部幸明、保科洋、及び山田一雄の諸師に師事。

1976年、名古屋フィルにヴィオラ奏者として入団。

1977年、カラヤン・コンクール・イン・ジャパンでベルリンフィルを指揮、第2位に入賞。

1978年、日本ユースシンフォニーの指揮者としてロンドンでデビュー。

同年、カラヤンの招きによりベルリンフィルで2年間研修を行い、親しい指導をうける。

1981年の名古屋フィルアシスタントコンダクター就任を経て、現在コンサート、オペラ、バレエ、ミュージカルの公演指揮の他、編曲、ラジオ番組でパーソナリティーを務める等多方面に活躍中。